

地域との連携事例共有

市と28大学の代表者会議

横浜市と市内を中心とする「市パートナーシップ協議会」の大学で構成する大学・都の代表者会議が12日、市長



地域との連携について発表した神奈川大の学生ら（右側）＝横浜市西区

公舎（同市西区）で開かれた。学生や教員が地域と連携しながら取り組んだ社会貢献や地域活性化の事例を発表。参加した各区長や大

学が地域と連携を促す取り組みに力を入れているフェリス学院大学は、子ども向けの自然に親しむ講座の開催や食堂の生ごみリサイクル、学生が企業と連携したフェアトレードの商品開発などを教員が紹介した。

神奈川大学は学生や地域住民、商店街が連携し、交流を深めるイベント開催や認知症への理解を促す活動を学生が発表。同大3年の小倉勝士さん（20）は「学生は経験不足なところがある

が、街の中に入っていく経がった」と話していた。経験は自分自身の成長につな

が、街の中に入っていく経がった」と話していた。経験は自分自身の成長につな

（山本 昭子）